平成 27 年 9 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 27 年 9 月 24 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(370)9237

≪今月のトピックス≫

- **手足口病の流行はピークを過ぎましたが、警報レベルが続いています。**
- **RS ウイルス感染症の報告が急激に増加しています。**

全数把握の対象

【9 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	11 件	後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）	3 件
E 型肝炎	1 件	ジアルジア症	1 件
A 型肝炎	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3 件
デング熱	3 件	侵襲性肺炎球菌感染症	1 件
レジオネラ症	5 件	水痘（入院例に限る）	1 件
アメーバ赤痢	5 件	梅毒	5 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3 件	風しん	1 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 件		

1 **腸管出血性大腸菌感染症**：11 件の報告がありました。感染源の食品が明確になった食中毒などの事例はありませんでしたが、肉を十分加熱（中心部まで 75℃で 1 分間以上加熱）して食べるなど、予防対策が重要です。また、本疾患は家族内での 2 次感染も多く見られるため、予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。

2 **E 型肝炎**：50 歳代の報告が 1 件ありました。シンガポールでの感染か、国内での鳥レバー喫食による感染が推定されています。東南アジアでは水系感染による感染が多く、国内での感染は、多くが生肉や内臓の喫食が関連しています。ブタ、シカ、イノシシなどの肉・内臓を食する場合には十分加熱することが大切です。国立感染症研究所によると、E型肝炎となった場合、致死率は一般の人々でも1～2%で、さらに妊婦では劇症肝炎の割合が高く、致死率が 20%にも達することがあり、注意が必要です。

3 **A 型肝炎**：50 歳代の報告が 1 件あり、国内での経口感染が推定されています。本疾患は上下水道の整備不十分な発展途上国への渡航時の感染が以前は多く見られましたが、近年国内感染例が増加しています。感染症発生動向調査の集計によると、国内での感染の特徴は、牡蠣やなんらかの飲食物（おそらく海産物）が主要な感染源で、罹患年齢が高年齢化しており、子供の感染では症状が軽いが、高齢者では重症化しやすい、などの特徴が見られます。

4 **デング熱**：3 件の報告のすべてに海外渡航歴（モルディブ、フィリピン（マニラ）、東ティモール）がありました。

5 **レジオネラ症**：肺炎型 5 件の報告がありましたが、明確な感染経路等は不明です。

6 **アメーバ赤痢**：腸管アメーバ症 5 件（国内感染例 4 件、感染地域等不明 1 件）の報告がありました。国内感染例のうち、1 件は異性間性的接触による感染、もう 1 件は経口感染、残る 2 件は感染経路不明でした。

7 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**：3 件の報告がありましたが、院内集団感染等はありませんでした。

8 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**：1 件の新生児の経産道感染による報告（血清型：B 群）がありました。全身状態は安定しており、軽快しました。

9 **後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）**：無症状病原体保有者 2 件、AIDS 1 件の報告がありました。うち 2 件は国内での感染（同性間および同性間・異性間性的接触）で、もう 1 件は感染地域不明ですが同性間・異性間性的接触による感染が推定されています。

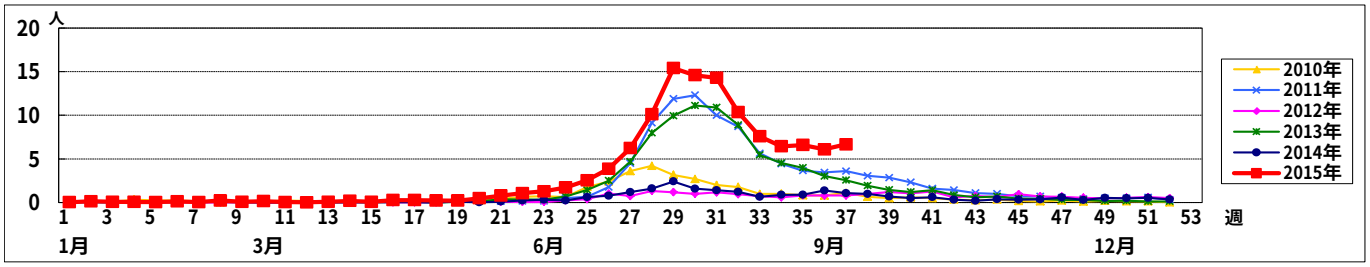
10 **ジアルジア症**：1 件の幼児の報告があり、国内での水系感染が推定されていますが、明確な感染源は不明でした。国立感染症研究所によると、ジアルジア症は典型的な糞口感染で、嚢子で汚染された食品や飲料水を介して伝播します。嚢子は感染力が強い（ヒトでの実験では、10～25 個の嚢子の摂取により感染が成立）ため、排泄者に対しては排便後の手洗いの指導が重要です。嚢子は水中で数か月程度は感染力が衰えず、浄水場における通常の浄水処理で完全に除去することは困難とされており、塩素消毒にも抵抗性を示します。したがって、HIV 感染者をはじめとする免疫機能低下者は、日常生活の上で生ものや煮沸消毒されていない水道水の摂取などには注意が必要です。

11 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:3 件の報告 (20 歳代、60 歳代、80 歳代) がありました。
12 **侵襲性肺炎球菌感染症**:1 件の幼児の報告がありました。予防接種歴は確認できませんでした。
13 **水痘 (入院例に限る)**: 40 歳代 (予防接種歴なし) の届出が 1 件ありました。
14 **梅毒**:5 件の報告 (早期顕症梅毒 I 期 2 件 (50 歳代男性、30 歳代女性)、早期顕症梅毒 II 期 1 件 (40 歳代男性)、先天梅毒 1 件、無症候期 1 件 (20 歳代女性) の報告がありました。感染経路では、国内での異性間性的接触 2 件、同性間性的接触 1 件、母子感染 1 件、針等の鋭利なものの刺入による感染 1 件でした。
15 **風しん**:幼児の臨床診断例が 1 件 (ワクチン接種歴 1 回有り) の報告がありました。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。横浜市では、①妊娠を希望されている女性(妊娠中は接種できません)、②妊娠を希望されている女性のパートナー(婚姻関係は問いません)、③妊婦のパートナー(婚姻関係は問いません)、を対象に風しんの予防接種と抗体検査を実施しています。詳しくは横浜市保健所ホームページをご参照ください。

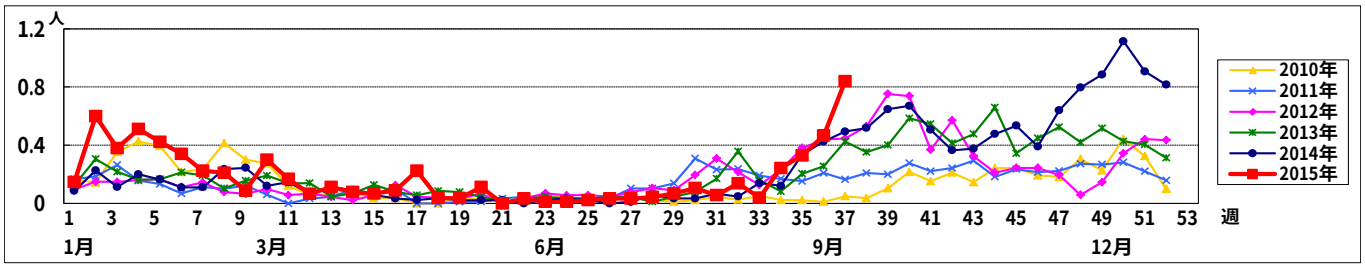
定点把握の対象

平成 27 年 週ー月日対照表	
第 35 週	8 月 24 日～30 日
第 36 週	8 月 31 日～9 月 6 日
第 37 週	9 月 7 日～13 日

1 **手足口病**:今シーズンは過去 10 年間で最大の流行となりましたが、第 37 週は市全体で定点あたり 6.68 と、流行のピークである第 29 週 15.39 からは低下しましたが、横ばい状態が続いており、引き続き警報レベル (警報発令基準値 5.00、終息基準値 2.00) です。区別でも 16 区で警報レベルです。市内の患者からは、シーズン初めにはコクサッキーウイルス A16 (CA16)、途中からはコクサッキーウイルス A6 (CA6) が検出されています。ウイルスの型が異なると、同じシーズンに 2 回手足口病に罹患する例もあるので注意が必要です。CA6 による手足口病では、かなり大きな水疱が四肢末端に限局せず広範囲に認められ、罹患 1～2 か月後に爪甲が脱落する症例も報告されています。



2 **RS ウイルス感染症**:第 37 週は市全体で定点あたり 0.84 と急激に増加しており、注意が必要です。



3 **性感染症**:8 月は、性器クラミジア感染症は男性が 27 件、女性が 13 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 8 件、女性が 9 件です。尖圭コンジローマは男性 8 件、女性が 4 件でした。淋菌感染症は男性が 15 件、女性が 1 件でした。
4 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第 35 週 2.00、第 36 週 1.33、第 37 週 2.00 と、継続して報告されています。無菌性髄膜炎の報告が 35 週に 1 件ありました。感染性胃腸炎 (ロタウイルスによるもの)、細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
5 **基幹定点月報**:8 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 6 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/